

金沢大学未来ビジョン



自己点検評価書 (令和4年度実績)

令和6年5月

国立大学法人金沢大学

- ・この自己点検評価書は、学校教育法第109条第1項で定める大学の教育研究等の状況に係る自己点検・評価として、金沢大学自己点検評価規程第4条に基づき、全学の自己点検評価を行った結果を公表するものです。
- ・金沢大学未来ビジョン『志』とは：
金沢大学は「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という基本理念に立脚し、「金沢大学未来ビジョン『志』」を掲げて「オール金沢大学で『未来知』により社会に貢献する」ことを目指しています。
未来ビジョン『志』は、金沢大学の揺るぎないビジョンを示し、研究・教育・経営、3つの機能を一体とし、27のミッションを掲げ、第4期中期計画と連動して取り組む事項として策定しています。

『志』の詳細は、[Webサイト](#)をご参照ください。



<目 次>

■研究 独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成

- 1 組織・体制の構築と発展 1
ミッション① 統合創成研究環の創設による多様な研究の推進
ミッション② 優位性・独自性のある研究分野の伸長
ミッション③ 研究支援機能の強化
- 2 大学人材が有する力の萌芽と伸長 2
ミッション① 戦略的・組織的な研究展開と研究成果の創出拡大
ミッション② 全学を挙げての実証研究の展開
ミッション③ 若手研究者支援を含めた研究環境の整備
- 3 社会との和の創造と深化 3
ミッション① 学士課程・大学院を通じた若手研究者育成支援
ミッション② オープンイノベーション・研究成果の社会実装の拡大
ミッション③ 組織的な共同研究の推進

■教育 社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

- 1 組織・体制の構築と発展 5
ミッション① 未来創成教育環による学修者本位教育への転換
ミッション② 大学院の飛躍的な機能強化
ミッション③ 文理融合型新学類の創設と学修環境の充実
- 2 大学人材が有する力の萌芽と伸長 6
ミッション① 「自ら学び・自ら育む」教育環境の整備
ミッション② 先導的教育プログラムの展開
ミッション③ 多様な学生交流の推進
- 3 社会との和の創造と深化 7
ミッション① 高大院連続型の支援システムの構築
ミッション② 多様な背景を持つ者の受け入れ拡大
ミッション③ 卒業・修了後も含めたキャリア支援の充実

■経営 人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

- 1 組織・体制の構築と発展 9
ミッション① 改革戦略室の創設と改革推進
ミッション② 支援組織・事務組織の機能の強化
ミッション③ 附属病院の診療・研究機能の強化
- 2 大学人材が有する力の萌芽と伸長 10
ミッション① DX推進、AIの導入と業務の効率化・質的向上
ミッション② キャリアシステムの構築
ミッション③ 外部の知見・技術の活用によるマネジメント機能の高度化
- 3 社会との和の創造と深化 11
ミッション① イノベーションハブとしてのマネジメントの強化
ミッション② 社会共創基盤の強化
ミッション③ ダイバーシティ環境の向上

<進捗状況>

◎：計画を上回って達成した。計画を前倒して達成した。

○：計画どおり実施し、達成した。

△：計画を十分実施できていない。

×：計画未実施

達成度評価 <総評>

計画以上	計画どおり	計画未滿	未実施
◎	○	△	×

■研究 独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成						
1 組織・体制の構築と発展						
① 統合創成研究環の創設による多様な研究の推進	計画どおり		○			
② 優位性・独自性のある研究分野の伸長 *最重要ミッション			○			
③ 研究支援機能の強化			○			
2 大学人材が有する力の萌芽と伸長						
① 戦略的・組織的な研究展開と研究成果の創出拡大	計画どおり	○				
② 全学を挙げての実証研究の展開 *最重要ミッション			○			
③ 若手研究者支援を含めた研究環境の整備			○			
3 社会との和の創造と深化						
① 学士課程・大学院を通じた若手研究者育成支援	計画どおり		○			
② オープンイノベーション・研究成果の社会実装の拡大			○			
③ 組織的な共同研究の推進		○				
■教育 社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出						
1 組織・体制の構築と発展						
① 未来創成教育環による学修者本位教育への転換	計画どおり		○			
② 大学院の飛躍的な機能強化 *最重要ミッション			○			
③ 文理融合型新学類の創設と学修環境の充実			○			
2 大学人材が有する力の萌芽と伸長						
① 「自ら学び・自ら育む」教育環境の整備	計画どおり		○			
② 先導的教育プログラムの展開		○				
③ 多様な学生交流の推進			○			
3 社会との和の創造と深化						
① 高大院連続型の支援システムの構築	計画どおり	○				
② 多様な背景を持つ者の受け入れ拡大			○			
③ 卒業・修了後も含めたキャリア支援の充実			○			
■経営 人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現						
1 組織・体制の構築と発展						
① 改革戦略室の創設と改革推進	計画どおり		○			
② 支援組織・事務組織の機能の強化		○				
③ 附属病院の診療・研究機能の強化			○			
2 大学人材が有する力の萌芽と伸長						
① DX 推進、AI の導入と業務の効率化・質的向上	計画どおり		○			
② キャリアシステムの構築			○			
③ 外部の知見・技術の活用によるマネジメント機能の高度化			○			
3 社会との和の創造と深化						
① イノベーションハブとしてのマネジメントの強化	計画どおり		○			
② 社会共創基盤の強化		○				
③ ダイバーシティ環境の向上			○			
27 のミッション			6	21	0	0

独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成

世界トップレベルの研究展開、世界的研究拠点の形成に向け、研究を牽引する組織の整備や研究支援体制の強化により、研究力を強化します。

1 組織・体制の構築と発展

<達成度評価>

計画どおり実施し、達成した。

○

<判断理由（実施状況等）>

ミッション① 統合創成研究環の創設による多様な研究の推進

【アクション】新たな融合研究を牽引する、学長直轄の組織「統合創成研究環」を創設します。幅広い領域の基礎研究・応用研究、融合研究をより一層推進します。

○

- ・統合創成研究環において、研究戦略に基づく教員配置を検討し、若手研究者支援強化のため、若手研究者育成（プロミシングリサーチャー）制度を構築した。また、研究環の機能強化と融合研究の推進のため、フラッグシップ研究所等へ新たに教員ポストを配分した。

ミッション② 優位性・独自性のある研究分野の伸長 *最重要ミッション

【アクション】複数の特定分野で世界を先導するWPI級拠点の形成を目指し、本学に優位性・独自性のある研究分野を戦略的・組織的に抽出・支援します。

○

- ・古代文明・文化資源学研究所から派生したバイオゲノミクス分野と医学系の生命科学分野の融合による進化医学分野に対し、文・医融合の新規学問分野として、新たな教員ポストの配置等、組織的な重点投資を行い、医薬保健研究域附属サピエンス進化医学研究センターの令和5年5月1日設置に向けて準備を進めた。（第4期指標 2-1）
- ・フラッグシップ研究所群の活動評価に向け、評価指標（絶対指標）の設定について検討を進めた。
- ・人間社会研究域附属先端観光科学研究センターを発展させ、北陸未来共創フォーラムでの観光分科会の設置や共同研究のスタートアップ等に必要な設備備品等の整備を組織的に支援し、令和5年4月1日付けで新たに「先端観光科学研究所」を設置することとした。
さらに、「新領域創成による総合知の創出」及び「人文社会、理工、医薬保健分野等、研究域における総合知の伸長」に向け、国立大学経営改革促進事業経費を活用し、学内公募の上、15件の研究プロジェクトを支援した。

ミッション③ 研究支援機能の強化

【アクション】研究支援機能の強化に向け、URA、技術職員等の研究支援人材像を明確化します。URA・技術職員等の個性を生かした研究支援を展開します。

○

- ・研究基盤統括本部が主催し、本学と富山大学の技術職員及びURAを対象としたマネージメント力アップ研修を実施（8月）し、スキルアップを図った。
- ・URA・技術職員等の個性を活かした業務を展開し、文部科学省先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）の中間評価において、総合評価で最高評価「S」を受けた。（第4期指標 12-3）

■ 研究 独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成

2 大学人材が有する力の萌芽と伸長

<達成度評価>	計画どおり実施し、達成した。	○
---------	----------------	---

<判断理由（実施状況等）>

<p>ミッション① 戦略的・組織的な研究展開と研究成果の創出拡大 【アクション】 研究戦略プロジェクト、コアファシリティ構築支援プログラム等を洗練し、展開します。特定・新分野の開拓、多様な基礎研究の推進等を戦略的・組織的に行い、研究成果の創出を大幅に拡大します。</p>	◎
--	---

- ・戦略的研究推進プログラムの下、次代を先導する世界的研究拠点の形成を目指す「超然プロジェクト」に新たに2件（3年間、60,000千円/件）、将来の世界的な研究拠点の形成を目指す「先魁プロジェクト」に新たに7件（2年間、20,000千円/件）を採択し、新たな世界的拠点となり得る卓越分野を選定し支援を開始した。また、国際共同研究の進展を目指す「燦燈プロジェクト」を新たに7件（1年間、1,000千円/件）採択した。（第4期指標2-1）
- ・コアファシリティ構築支援プログラム等、これまでの設備共用の取組を発展させ、組織的に共用設備整備（約1億円）を開始した。（第4期指標12-3）
- ・文・医融合の新規学問分野を中心に学長戦略ポストや国立大学経営改革促進事業経費を用いた特任教員の採用など、戦略に基づく支援を行った。（第4期指標2-1）

<p>ミッション② 全学を挙げての実証研究の展開 *最重点ミッション 【アクション】 産学協働研究拠点を中心に、キャンパス内の実証研究環境を整備するとともに、企業・自治体等と連携し、全学を挙げて実証実験を実施します。</p>	○
---	---

- ・令和5年4月1日の未来知実証センターの新設に向け、令和5年2月に「金沢大学未来知実証センター設置準備室」を設置し、組織体制や教員選考の検討を開始した。（第4期指標3-1）
- ・複数の大学や企業がオープンに参画し、業種や専門の壁を越えた自由な交流や、それぞれの特色を活かした異分野融合による価値共創を行うことが出来るバイオマス研究の最先端拠点「金沢大学バイオマス・グリーンイノベーションセンター（BGIC）」（令和5年度竣工）について、産産学連携のスキーム構築に向けたステアリング体制に係る規程等を整備した。（第4期指標3-1）

<p>ミッション③ 若手研究者支援を含めた研究環境の整備 【アクション】 教育・研究等の支援に関する個々の専門知識・技術の伸長や組織的な支援を実施します。研究環境の更なる充実等、若手研究者支援を含め、本学における研究力の一層の向上に向けた環境整備を行います。</p>	○
--	---

- ・プロミシングリサーチャー制度（大学院を修了した優秀な博士人材を3年間特任教員として雇用・育成し、国内外で活躍可能な研究者を育てる若手研究者育成制度）を令和4年12月に創設し、令和5年4月1日付けで4名の採用を決定した。（第4期指標7-1）
- ・学内研究戦略プロジェクト（COE制度）として、世界的研究拠点形成を支援する「超然プロジェクト」では若手研究者2名を新規採択（3年間、60,000千円/件）した。（第4期指標7-1）

■ 研究 独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成

3 社会との和の創造と深化

<達成度評価>	計画どおり実施し、達成した。	○
---------	----------------	---

<判断理由（実施状況等）>

<p>ミッション① 学士課程・大学院を通した若手研究者育成支援 【アクション】 次世代研究者挑戦的研究プログラム等を展開します。 総合大学のスケールメリットを生かし、学士課程から博士後期課程までシームレスに次世代の我が国を牽引するイノベーション人材を支援します。</p>	○
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・高大院連携による大学院機能強化を目的とした「金沢大学博士研究人材支援・研究力強化戦略プロジェクト（ハカセプラス）」の運用を開始し若手研究者育成支援を行った（給付型奨励金を含む7事業の一体化、本学独自奨励金支援状況：令和4年度実績207件、約3.2億円）。 ・令和4年度から本格的に開始された長期・有給のインターンシップ制度として大学院生を対象とした教育プログラムである「ジョブ型研究インターンシップ」（本学は文部科学省主導の事業として、産業界と大学で連携して行う取組みである「ジョブ型研究インターンシップ推進協議会」に参画）へ自然科学研究科に加え、医薬保健学総合研究科及び新学術創成研究科の新規参画により、延べ14名の学生が登録した。（第4期指標7-1）

<p>ミッション② オープンイノベーション・研究成果の社会実装の拡大 【アクション】 先端科学・社会共創推進機構における企業等と連携した社会共創に関する新たなプロジェクトを実施し、研究成果の社会実装を拡大します。</p>	○
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・社会共創実現に向け、企業等と連携し、「脱炭素社会の構築に向けた新たなグリーンイノベーション推進を目的としたプロジェクト」や「個人の意思に基づく医療・介護・ヘルスケア分野のデータの利活用を目的としたプロジェクト」等を立ち上げた。さらに、バイオマスを使った資源循環型社会の実現を目指し、企業との共同研究等を複数実施した。（第4期指標3-1） ・北陸未来共創フォーラム（令和3年11月創設）では、会員以外の他業種を含めた多様な交流イベントやシンポジウム（令和5年3月20日）を実施し、北陸地域の企業・団体等とのネットワークの強化及び新規会員の獲得を推進した。令和5年3月末までに会員数が119機関に増加するとともに、会員の多様性（株式会社、有限会社、自治体、社団法人、財団法人、学校法人、大学法人、独立行政法人、商工会議所、個人商店等）が向上した。（第4期指標1-1）

<p>ミッション③ 組織的な共同研究の推進 【アクション】 研究成果の創出、社会への還元に向け、産学連携、産学官金連携を組織的に推進します。企業等と連携した社会共創に関するプロジェクトや共同利用・共同研究拠点における国際的な共同研究等を展開します。</p>	◎
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）」（令和4年9月）及び「令和4年度共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）スタートアップ創出／成長の促進支援」（令和4年11月）に採択され、これらを基に、学内のスタートアップ支援体制を構築した。 ・金沢大学が全額出資するベンチャーキャピタル及び投資ファンド（VI-1号投資事業有限責任組合）の令和5年度の設立準備を進めた。また、北陸スタートアップ創出プラットフォーム及び大学間連携GAPファンドの設立に向け、北陸先端科学技術大学院大学と検討を開始した。 ・環日本海域環境研究センターでは、共同利用・共同研究拠点として、国際共同研究15件を採択及び国際共著論文41報を報告した。（第4期指標8-1）
--

第4期中期計画 - 関連指標 -

計画(1)	北陸の中核都市に立地する国立大学として、知・人・資本が循環するイノベーションハブを形成し、世界水準の研究力を核に、“新たな知の創出等、地方創生に向けた研究を展開”するとともに、“世界的視野を保持しつつ地域に根差し、地方におけるイノベーション創出を担う人材を育成”する。		
指標 (1-1)	北陸地区4大学と経済団体を中心に企業、自治体、金融機関、諸団体等で構成する地域連携プラットフォームである「北陸未来共創フォーラム」における北陸地域の企業・団体等との組織的な連携と選定する分野での社会共創活動の実施	対応 ミッション	研究-3-②
計画(2)	多様な分野を有する総合大学として、“卓越研究領域の育成・先鋭化”と“グッドプラクティスの全学展開”により、卓越分野の拡充・強化と分野融合研究の推進、国内外ネットワークの拡大・強化を図り、世界最高水準の学術拠点の形成を推進する。		
指標 (2-1)	世界的研究拠点形成、研究グループ組織化を行う本学独自の研究支援制度である戦略的研究推進プログラム等による分野融合を含めた国内外研究機関との新たな組織的な共同研究を令和7年度までに実施	対応 ミッション	研究-1-② 研究-2-①
計画(3)	金沢大学先端科学・社会共創推進機構や新産学協働研究拠点（仮称）、社会・産業界と密接に連携する附属研究所等を核に、非連続なイノベーションを生み出す研究開発を強化し、新しい価値の創出とその社会実装を迅速に進める、知・人・資本が循環するイノベーションエコシステムを展開する。		
指標 (3-1)	先端科学・社会共創推進機構、新産学協働研究拠点（仮称）における企業等と連携した社会共創に関する新たなプロジェクトを令和6年度までに実施	対応 ミッション	研究-2-② 研究-3-②
計画(7)	卓越研究大学としての基盤となる研究力の強化に向け、全学的な研究支援体制の強化を図り、総合大学の特徴を最大限生かし、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野を対象とした研究者自らの斬新な発想に基づく研究を支援し、次世代若手研究人材を育成する「自己超克プロジェクト」等により強み・特色のある研究分野の育成・強化及び分野融合研究の進展を図るとともに、ダイバーシティ環境を推進し、基礎研究を充実する。		
指標 (7-1)	「自己超克プロジェクト」等による研究者の自立や新研究分野への挑戦等、研究フェーズに応じた体系的な研究支援の実施及びその検証・見直しを令和7年度までに実施	対応 ミッション	研究-2-③ 研究-3-①
計画(8)	「がんの転移・薬剤耐性」、「越境汚染に伴う環境変動」に関し、国際的なプレゼンスの向上を目指し、国際的にも有用かつ質の高い研究資源等を最大限活用し、共同利用・共同研究拠点としての機能強化を図る。また、環日本海域の先端的環境・保全学に関する教育関係共同利用拠点として、環境保全をテーマとした先導的な実習プログラムを推進する。		
指標 (8-1)	共同利用・共同研究拠点における毎年度新たな共同研究を開始	対応 ミッション	研究-3-③
計画(12)	大学の機能を最大限発揮するため、戦略的な施設マネジメントを行うとともに、研究基盤統括本部を中心とした設備共用を進め、教育研究インフラの高度化を図る。		
指標 (12-3)	設備共同利用推進総合システムの利用促進	対応 ミッション	研究-1-③ 研究-2-①

社会の中核的リーダーたる “金沢大学ブランド人材”の輩出

「金沢大学ブランド人材」の育成・輩出に向け、教育改革を包括的に推進するための体制整備や教育組織の再編等により教育機能を強化します。

1 組織・体制の構築と発展

<p><達成度評価></p>	<p>計画どおり実施し、達成した。</p>	<p>○</p>
<p><判断理由（実施状況等）></p>		
<p>ミッション① 未来創成教育環による学修者本位教育への転換 【アクション】学長直轄による教育改革の抜本的飛躍を担う未来創成教育環を創設し教育改革を推進します。様々な学内教育リソースを集約化、見える化し、教育改革の軸を学生主体に切り替え様々な学びを学生に提供します。</p>	<p>○</p>	<p>○</p>
<ul style="list-style-type: none"> 未来創成教育環において、運営委員会、ワーキンググループを設置し、人員配置計画に基づく教員2名の採用を決定した。また、スチューデント・アシスタント制度、予習復習に資するオンライン教材、英語化教材等、学修者参加型の教育改善・学修環境向上に関する仕組みづくりについて検討した。 未来創成教育環の下、教学マネジメントセンターを中心に、先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) においては、学生スタッフを活用したラーニング・コミュニティを充実させた。また、「学びの計画書」の Web インターフェイスを開発し、学習成果等の可視化を行った。 		
<p>ミッション② 大学院の飛躍的な機能強化 *最重点ミッション 【アクション】グローバルに活躍するイノベーション人材や地方創生に寄与する「知のプロフェッショナル人材」の育成に向け、人文・社会科学系、自然科学系、基礎医学・薬学研究者等の養成に係る組織を再編します。博士後期課程を中心に大学院の入学定員を拡大します。</p>	<p>○</p>	<p>○</p>
<ul style="list-style-type: none"> 学士課程・大学院課程全体における3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の一貫性・整合性を含めた体系的整理を行い、大学院の内部質保証を強化した。 次世代の博士研究人材に必須の素養を涵養するため、研究科を横断する基幹教育科目として、大学院 GS 基盤科目（10科目）及び大学院 GS 発展科目（4科目）を開設した。また、令和5年度開設に向けて、数理・データサイエンス・AI教育に資する科目（大学院 GS 基盤科目、大学院 GS 発展科目）を構築した。 コチュテルプログラムの構築を推進するため、「金沢大学における外国の大学院との共同学位プログラムの実施に関する規程」を制定（令和4年7月15日）した。これに基づき、ナレースワン大学医学研究科（博士 DDP）、インドネシア教育大学言語文学教育学部（修士 DDP）、ゲント大学文学部東洋言語文化学科日本分野（修士 DDP）とコチュテルプログラムを立ち上げた。（第4期指標 5-3） 令和3年度に新設した医薬保健学域医薬科学類では、令和7年3月に最初の卒業生を輩出することに伴い、接続する大学院である医薬保健学総合研究科医科学専攻修士課程及び創薬科学専攻博士前期課程の令和7年度の入学定員の見直しの検討を開始した。（第4期指標 5-1） 		
<p>ミッション③ 文理融合型新学類の創設と学修環境の充実 【アクション】社会のニーズ等を踏まえ、融合学域における文理融合型新学類を創設します。学士課程における編入学を含む学生定員を拡大します。</p>	<p>○</p>	<p>○</p>
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年4月に、融合学域観光デザイン学類を新設した。また、令和5年度の融合学域先導学類の編入学試験を実施した。 融合学域スマート創成科学類の令和5年4月設置が認められ、入学試験を実施した。 融合学域における教育組織の設置に際し、学士課程における全学の編入学定員の見直しも行き、編入学定員30名の拡大が認められた。（第4期指標4-2） 		

■ 教育 社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

2 大学人材が有する力の萌芽と伸長

<達成度評価>	計画どおり実施し、達成した。	○
---------	----------------	---

<判断理由（実施状況等）>

<p>ミッション① 「自ら学び・自ら育む」教育環境の整備 【アクション】 ポストコロナの新たな時代を見据えたVR技術等の新しい教育手法の拡充を軸とする「育み支える教育」へ質的転換を行います。学修者が自らの興味に基づき、自ら学べるデジタルコンテンツ・教材を充実します。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・XR（Cross Reality：クロスリアリティ）技術を活用したDX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）コンテンツを作成し、アクティブラーニング型授業科目であるGS科目を中心とした授業で活用した。（第4期指標4-1） ・講義・演習においては、対面授業であっても予習・復習に資する「オンデマンド教材」を提供することを原則とし、令和4年度第4クォーターを試行期間として実施する等、学修支援に関するデジタルコンテンツの環境整備を進めた。（第4期指標4-1） 	

<p>ミッション② 先導的教育プログラムの展開 【アクション】 不確実な社会であっても活躍できる人材を育成するため、「知識集約型先導STEAM 人材育成プログラム」等の教育プログラムを展開します。</p>	◎
<ul style="list-style-type: none"> ・全学の数理・データサイエンス・AI教育に関する企画運営等の業務を統括し、各学域・研究科での運営を支援するとともに、地域コミュニティや産業界との連携を積極的に推進することを目的とし、令和4年7月に「数理・データサイエンス・AI教育センター」を設置した。 ・「データサイエンス特別プログラム応用基礎レベル」を拡張し、令和4年8月に、全学類が文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の認定を取得した。また、「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開推進」事業の「特定分野：社会科学」及び「地域ブロック代表校（北信越ブロック）（参加機関数83大学等）」として選定された。 ・アワードシステム*を活用した「先導STEAM人材育成プログラム」（学士課程対象の文理融合学修プログラム、ブロンズ以上取得者1,389名）及び「データサイエンス特別プログラム」（学士課程対象、ブロンズ以上取得者3,099名）を実施し、学修成果の把握・可視化を行った。（第4期指標1-2） <p>*卒業・修了要件以外に身に付けた能力・資質を可視化する本学独自のシステム。 一定の単位数修得をもって、ブロンズ・シルバー・ゴールド・プラチナのアワードが付与される。</p>	

<p>ミッション③ 多様な学生交流の推進 【アクション】 国際社会や地域社会において多様な価値観を受入れ、活躍できる人材を育成するため、多様な背景を持つ学生が学び合い、成長できる交流の場を提供します。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な背景を持つ学生が平等な学修機会を持つための教育プログラムとして、8月に協定校等の様々な国から外国人留学生7名、10月には20名を受け入れ、「SDGs研修サマープログラム」を実施した。また、実渡航による金沢大学交換留学（KUEP）、短期受入プログラムの他、コロナ禍等により渡日できない学生の学修機会提供のため、金沢大学交換留学（KUEP）のオンライン交換留学プログラムも実施した。 ・令和5年度以降のCOIL型授業の実施方法、教材等に関してパートナー大学との協議を4大学（南海大学、ヘブライ大学、シンガポール国立大学、信州大学）と実施した。 ・授業科目の英語化率について、学士課程・大学院課程共に上昇した。 	

■ 教育 社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

3 社会との和の創造と深化

<達成度評価>	計画どおり実施し、達成した。	○
---------	----------------	---

<判断理由（実施状況等）>

<p>ミッション① 高大院連続型の支援システムの構築 【アクション】 高大接続に始まり学士課程、大学院まで一貫した教育・学生支援を行います。</p>	◎
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高大接続コア・センターを中心として、学士課程における入試成績及び入学後の学修成績等の情報を基に IR を実施した。 ・ 豊かな国際感覚を醸成するため、全学域・全研究科所属の正規学生を対象とする海外派遣プログラムとして、「インド文化交流プログラム」を国際機構において構築し実施した。 ・ 英語学術リテラシー科目担当教員を公募し 1 名を採用した。また、国際基幹教育院外国語教育系において、同科目開発教員 4 名を選出した。 ・ 各研究科、教学マネジメントセンター及び国際基幹教育院から選出した計 12 名から成る「学士・大学院一貫教養教育 WG」を設置（令和 4 年 11 月）した。 ラボローテーション*必修化の検討を開始し、実施要項の作成、運用・手続き等を整理し、学生及び学務系職員対象の Web サイトを構築した。 <p>*ラボローテーション：自身の研究分野と異なる研究室において、一定の期間研究を実施することで、研究に対する視野を広げるとともに新たな発想や研究手法を修得することを目的として、令和 4 年度から修士・博士前期課程を対象に選択科目（授業科目名：異分野研究探査）として開講。</p>	

<p>ミッション② 多様な背景を持つ者の受け入れ拡大 【アクション】 留学生、社会人等の多様な背景を持つ者の受け入れを拡大するための入試改革を行います。ダイバーシティ環境での教育を充実します。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 先取履修に資するため、高校生を対象とした科目等履修生学生募集要項を作成し、Web 掲載した。 ・ 理工学域において、女子学生を増やす方策として、令和 6 年度入学者選抜試験から特別選抜に「女子枠特別入試・募集人員 34 名」を理工学域 5 学類に設置することを決定し、令和 5 年 3 月に公表した。また、医薬保健学域医学類の KUGS 特別入試総合型選抜において、地元育成枠（地域枠）を令和 6 年度入学者選抜試験から新設することを決定し、令和 4 年 12 月に公表した。 ・ 令和 4 年 4 月にダイバーシティ推進機構を創設した。ダイバーシティ環境推進のため、LGBTQ+に関する啓発活動に力を入れ、令和 3 年度まで事務職員を対象に行っていた LGBTQ+に関する勉強会を教員にも対象を広げ計 4 回実施した。令和 5 年 4 月の「LGBTQ+サポートガイド」公表に向け、外部の専門家から助言を受けつつサポートガイド（案）を作成し、令和 5 年 3 月に学生、教職員に対して広く意見募集を行った。 	

<p>ミッション③ 卒業・修了後も含めたキャリア支援の充実 【アクション】 学生の専門的知見の伸長に加え、新たな社会で必要とされる知識・知恵・スキルを醸成するための社会との連携を強化します。卒業・修了後も学び続ける者等、多様なニーズに応じ、リカレント教育を充実します。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外での就業体験を希望する学生が、比較的低いハードルで参加可能な海外インターンシップの開発に向け、企業での実務経験を有する有期専門職員 1 名をキャリア支援室に配属し、海外法人等を有する複数の地場企業等に打診・交渉を開始し、1 件の新規開発の道筋をつけた。 ・ 融合学域において、「海外実践留学」及び「国際インターンシップ」に関して 22 の独自派遣プログラムを立ち上げた。 ・ 文部科学省「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」（令和 4 年 6 月採択）として、「地域企業の中核を担う「地域企業次世代リーダー」育成プログラム」を実施し、リーダーシップや基礎的な経営理論、マネージング手法について、リスキリングを推進した。 	

第4期中期計画 - 関連指標 -

計画(1)	北陸の中核都市に立地する国立大学として、知・人・資本が循環するイノベーションハブを形成し、世界水準の研究力を核に、“新たな知の創出等、地方創生に向けた研究を展開”するとともに、“世界的視野を保持しつつ地域に根差し、地方におけるイノベーション創出を担う人材を育成”する。		
指標 (1-2)	令和6年度に完成年度を迎える全学域を対象とした知識集約型「先導 STEAM 人材育成プログラム」等の先導的教育プログラムの実施	対応 ミッション	教育-2-②
計画(4)	時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、専門的知識や論理的思考力を持って社会課題の解決に資する能力を有し、グローバルに活躍する人材や地方創生に寄与する人材の育成に向け、教学マネジメントの強化とデジタル活用の推進を図りながら、金沢大学が育成する人材の具体的な姿を示した金沢大学<グローバル>スタンダードを基盤に、学域・学類の専門性に加え、異分野融合による学修者本位の教育を実現する。		
指標 (4-1)	学修者が自ら学ぶことのできるデジタルコンテンツ・教材の見直しと新規作成	対応 ミッション	教育-2-①
指標 (4-2)	令和5年度までに文理融合型新学類を創設	対応 ミッション	教育-1-③
計画(5)	持続可能でインクルーシブな超スマート社会を実現し、グローバルな視点で社会を牽引する、イノベーション創出に寄与する「知のプロフェッショナル」の育成に向け、養成する人材像に応じた教育課程を編成するとともに、卓越大学院プログラム等をはじめとした複数研究科横断型・異分野横断型教育プログラムや海外を含めた他機関と連携した教育プログラムを展開する。		
指標 (5-1)	第4期中期目標期間中の自然科学系研究者、基礎医学・薬学研究者等の養成に係る課程の再編	対応 ミッション	教育-1-②
指標 (5-3)	海外を含めた他機関と連携した新たな大学院教育プログラムを令和7年度までに構築	対応 ミッション	教育-1-②

人・知・社会の好循環を作り出す 持続可能で自律的な運営・経営の実現

持続可能で自律的な運営・経営の実現に向け、学長直轄の大学改革の司令塔となる組織を創設します。大学改革の進展に応じた事務組織の再編、附属病院の機能強化等により体制を強化します。

1 組織・体制の構築と発展

<達成度評価>	計画どおり実施し、達成した。	○
<判断理由（実施状況等）>		
ミッション① 改革戦略室の創設と改革推進 【アクション】 先駆的・戦略的な改革を迅速に推進するため、学長直轄の改革戦略室を創設します。教員と職員が協働し、組織的・機動的に機能強化やマネジメントに係る改革を行います。		○
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年4月に、教職協働によるシンクタンク機能及びドゥタンク機能を有する学長直轄の「改革戦略室」を設置し、ミッションに応じたCFT（クロスファンクショナルチーム）を編成するとともに統括IR機能を構築した。各CFTにおいては、経営戦略、広報戦略、社会共創戦略等の政策提言を行った。 未来ビジョン『志』に基づき、学長との対話の下、各部局の運営目標を立案した。さらに、学長と学長補佐との懇談会（計2回）、学長と部局長・所属長との懇談会（計2回）に加え、若手教員、学生との懇談会も実施する等、経営・研究・教育戦略を一体化した全学マネジメント体制の確立に向け、ビジョンの共有を行った。 		
ミッション② 支援組織・事務組織の機能の強化 【アクション】 目的やプロジェクトに応じ、柔軟に支援組織や事務組織を再編します。また、プロジェクト等に応じ、組織横断的に業務を遂行する体制を構築します。		◎
<ul style="list-style-type: none"> 戦略企画・実行機能及び業務の推進体制を強化するため、改革戦略室の下に企画評価室、学長秘書室、広報戦略室及び基金・学友支援室の事務職員をもって組織する「改革戦略室事務局」を令和5年4月に置くこととした。さらに、MOT Lovely Project（学生の食環境充実）、G7 富山・金沢教育大臣会合対応チーム、臼井講堂建設プロジェクトなど個別の業務課題に応じ、組織横断PT（プロジェクトチーム）を立ち上げ、組織横断的に業務を遂行できる体制を整備した。 		
ミッション③ 附属病院の診療・研究機能の強化 【アクション】 附属病院の診療機能や研究機能の強化に向け、診療棟や医療機器等の計画的整備、高度臨床研究の推進等、ポストコロナ時代を見据えた附属病院改革を行います。		○
<ul style="list-style-type: none"> 第2中央診療棟新営および既設棟改修に向けて、借入金等を活用した複数年にまたがる収支計画を策定し、令和6年3月の供用開始に向けて整備を進めた。（第4期指標 10-1、12-2） 令和6年4月から医師に適用される時間外労働の上限規制に対応するため、検討WGを8回開催した。また、労働時間実態調査の実施とともに、派遣先病院での勤務（副業・兼業）を含めた労働時間を把握する勤怠管理システム整備事業の実施に向け、文部科学省「医学部等教育・働き方改革支援事業」へ応募し、採択された。（令和5年2月）（第4期指標 10-1） 世界的研究拠点形成に資する先進的臨床研究の推進に向けた附属病院戦略的研究推進プログラム「B4プロジェクト2022」を公募し、2件を採択し支援を開始した。また、応募課題のうち他2件の病院長裁量経費による支援も開始した。（第4期指標 10-2） 		

2 大学人材が有する力の萌芽と伸長

<達成度評価>	計画どおり実施し、達成した。	○
---------	----------------	---

<判断理由（実施状況等）>

<p>ミッション① DX推進、AIの導入と業務の効率化・質的向上 【アクション】 AI を活用した業務の合理化・自動化等、DX推進により、ICTを活用した業務改善を行います。蓄積されたデータを利用したIR機能を強化します。会議の縮減、会議時間の短縮等を推進します。これにより、クリエイティブな活動に割く時間を創出します。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務情報システムの効率化を含めた運用強化を図るため、令和 5 年 12 月導入予定の新事務用情報システムの仕様に、全事務職員へノート PC を配布し利便性を高めるほか、業務に必要なソフトウェア等が効率的に動作するようサーバスペックの強化を盛り込んだ。(第 4 期指標 11-1、15-1) ・ 事務職員の人事評価について、現行の人事給与・勤怠管理システムを用いて、新たに Web 画面で目標設定から評価まで完結できる機能を導入した。 ・ 会議時間の縮減に向け、会議の効率的な運営に資する「会議縮減に係る観点」（令和 4 年 9 月 16 日総務担当理事裁定）を策定した。(第 4 期指標 11-1) ・ スペースの効率的な活用方策の検討に向け、角間北・中地区の主たる教育研究施設について、施設の利用状況に係る現地調査を実施した。(第 4 期指標 12-1) ・ 情報戦略本部において、令和 4 年から 6 年度までの「サイバーセキュリティ対策基本計画」の検討・策定を行うとともに、「金沢大学情報セキュリティインシデント対応チーム（CSIRT）」を設置した。(第 4 期指標 15-2) 	

<p>ミッション② キャリアシステムの構築 【アクション】 URA・技術職員・事務職員等のキャリアシステムを再編するとともに人事給与制度改革を行います。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ URA の能力向上に向け、それぞれが活動状況ポートフォリオを作成するとともに、一般社団法人 URA スキル認定機構が実施する研修の受講（Fundamental レベル、Core レベル）の支援を行った。さらに、研究基盤統括本部において、URA のみならず、技術職員のマネジメント力向上に向けた研修を実施した。(第 4 期指標 11-3) ・ 事務職員の自発的なキャリア形成に向け、学内キャリアカウンセラー等資格保有者と共同でプログラムを構築し、キャリアデザイン実践セミナーを開催するとともに、事務職員メンター制度を導入した。 	

<p>ミッション③ 外部の知見・技術の活用によるマネジメント機能の高度化 【アクション】 外部資金の獲得拡大など経営マネジメント等に係る抜本的改革を推進します。外部人材・多様な人材を登用し、外部の知見・技術を活用します。また、その知見・技術を学内で共有し、職員のマネジメント能力の向上を図ります。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的な財政基盤の強化に向け、令和 4 年度金沢大学資金管理計画及び令和 4 年度中・長期資金運用方針に基づき、余裕資金の機動的かつ効率的運用を実施し、運用状況を確認しながら、適時ポートフォリオの見直しを行った。(第 4 期指標 13-1) ・ 寄附金付自動販売機の契約条件の見直しを行い、売上増に向けて電子マネーの導入及び配置の見直しを行うとともに、民間事業者からの広告収入獲得に向けた制度の検討を開始した。(第 4 期指標 13-1) ・ ジョブ型志向の人材の配置に向けて、経営改革の展開に必要な資格取得及び研修受講を支援する「事務職員・技術職員高度化支援制度」の試行を開始し、3 名が准認定ファンドレイザー試験に合格した。また、新たに設置する基金・学友支援室の室長職を学内公募し、准ファンドレイザー有資格者を室長に配置することとした。(第 4 期指標 11-3) 	

3 社会との和の創造と深化

<達成度評価>	計画どおり実施し、達成した。	○
---------	----------------	---

<判断理由（実施状況等）>

<p>ミッション① イノベーションハブとしてのマネジメントの強化 【アクション】 最高学府またイノベーションハブとして、本学の知を核に、多様な人材・知・資金が循環するイノベーションエコシステムを展開します。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> 世界的なヘルスケア研究拠点の構築を含むキャンパス形成に向け、文部科学省及び金沢市と検討を開始した。(第4期指標 12-2) 複数の大学や企業がオープンに参画し、業種や専門の壁を越えた自由な交流や、それぞれの特色を活かした異分野融合による価値共創をより活発に行うことが出来るよう、バイオマス研究の最先端拠点「金沢大学バイオマス・グリーンイノベーションセンター (BGIC)」(令和5年度竣工)におけるステアリング体制に係る規程等を整備した。 	

<p>ミッション② 社会共創基盤の強化 【アクション】 経営改革を含めたブランディング・広報戦略を抜本的に見直し、その戦略に沿った効果的な広報を行います。ステークホルダーからの理解・支持・意見の獲得に係る体制を見直し、エンゲージメントを通じた運営・経営を強化します。北陸未来共創フォーラムを中心に北陸地域の多様なステークホルダーと連携し、地方創生に向けた共創事業を拡大します。</p>	◎
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年4月に広報戦略 CFT を設置し、情報資源の分類・整理方法について、ステークホルダーごとの効果的・効率的な広報施策の検討を重ね、Web サイト、SNS、刊行物等の更新を工夫した。さらに、令和5年3月に「広報・ブランディング基本理念」を策定した。(第4期指標 14-1) 北陸未来共創フォーラムにおいては、Web サイトを改修し、活動紹介・報告、オンラインサロンの開設、新設置分科会の広報等を行うことで、会員間の交流の活性化を図った。また、会員とのネットワーク強化を目的に、シンポジウムを開催(令和5年3月20日)するとともに、各地域の企業交流会やテクノフェアへの参加、各大学が実践するリカレント教育や就職促進を目的としたプログラムとの連携を行い、会員だけではなく他業種も含めた多様な交流の場を設けた。(第4期指標 1-1、11-2) 理事、学域・研究域長等で構成する企画評価会議を廃止し、学長を議長とし、理事、学長補佐、部局長等で構成する大学改革推進委員会が全学の自己点検評価を行うことを決定した。(令和5年3月)また、社会の要請を反映して策定した金沢大学未来ビジョン「志」のフォローアップを全学の自己点検評価に充て、公表することを決定した。 	

<p>ミッション③ ダイバーシティ環境の向上 【アクション】 ダイバーシティ推進機構を中心として、様々な個性を持つ学生・教職員が志高く自らの能力を最大限に発揮できる「ダイバーシティ環境」を整備します。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ推進機構を設置(令和4年4月1日)し、シンポジウム、研修等を多数実施するとともに、機構ニュースを発行する等の広報活動を行った。また、ダイバーシティ&インクルージョンについて意識啓発を図るとともに、誰もが働きやすい環境づくりの一環として、ワーク・ライフ・バランス宣言(令和4年10月21日)を発出し、周知活動を行った。男性の育児休業取得促進のため、セミナーの開催、ポスター掲示により意識啓発を図るとともに、各部局における行動目標及び行動計画を策定した。 女性研究者の採用及び上位職登用のための研修や各種支援事業を実施し、女性研究者比率及び女性研究者採用比率が対前年度比で向上した。また、学内で実施する研究推進・大学改革プロジェクトの一環として、令和5年度に採用する人員のうち、8ポストを女性限定公募とした。 外国人留学生の受け入れ拡大に向け、国内日本語学校への訪問調査や入学希望者を対象としたオンラインでの留学フェア及び個別留学相談、大学紹介(オンデマンド)を実施した。また、留学生宿舎の充実のため、コロナ禍、令和4年3月をもって停止していた石川県留学生交流会館の一部借上げの再開に向けて当該会館と協議を開始した。 	

第4期中期計画 - 関連指標 -

計画(1)	北陸の中核都市に立地する国立大学として、知・人・資本が循環するイノベーションハブを形成し、世界水準の研究力を核に、“新たな知の創出等、地方創生に向けた研究を展開”するとともに、“世界的視野を保持しつつ地域に根差し、地方におけるイノベーション創出を担う人材を育成”する。		
指標(1-1)	北陸地区4大学と経済団体を中心に企業、自治体、金融機関、諸団体等で構成する地域連携プラットフォームである「北陸未来共創フォーラム」における北陸地域の企業・団体等との組織的な連携と選定する分野での社会共創活動の実施	対応 ミッション	経営-3-②
計画(10)	地域における高度な医療を提供し続けるため、手術室の増室や外来化学療法センターの増床等により、診療機能を再編するとともに、医療従事者の計画的配置、研修医・専門医に対する関連病院と連携した教育プログラムを展開する。これに加えて、学内公募により有望な研究シーズに対し、研究費を助成することにより臨床研究を推進する。		
指標(10-1)	診療機能の再編と医療従事者の計画的な配置等による、地域における高度な医療の提供	対応 ミッション	経営-1-③
指標(10-2)	これまでの臨床研究支援の仕組みを見直し、有望な基礎・臨床研究を核とした拠点形成に向けた新たな研究支援の仕組みを令和7年度までに構築	対応 ミッション	経営-1-③
計画(11)	第3期中期目標期間に構築した学長のリーダーシップを基盤とするガバナンス体制の下、意思決定プロセスの更なる見直しを行うとともに、国立六大学連携コンソーシアムや大学コンソーシアム石川等、他機関と連携した事業の実施、多様な知見の活用を可能とする人事給与制度改革の推進等により、社会の状況に応じた柔軟な大学経営を行う。		
指標(11-1)	法定外会議体の役割等の再整理を令和5年度までに実施するほか、DXの推進による意思決定の迅速化や効率化、円滑な情報共有、コンセンサス形成	対応 ミッション	経営-2-①
指標(11-2)	国立六大学連携コンソーシアム、大学コンソーシアム石川等との連携事業の実施	対応 ミッション	経営-3-②
指標(11-3)	人事給与制度改革の推進等に係る年度計画の策定及び同計画に沿った制度改革及びプロフェッショナル人材の順次採用	対応 ミッション	経営-2-② 経営-2-③
計画(12)	大学の機能を最大限発揮するため、戦略的な施設マネジメントを行うとともに、研究基盤統括本部を中心とした設備共用を進め、教育研究インフラの高度化を図る。		
指標(12-1)	保有施設の利用状況調査と有効活用の実施	対応 ミッション	経営-2-①
指標(12-2)	計画的なキャンパス整備の実施 (新中央診療棟(仮称)の整備)	対応 ミッション	経営-1-③ 経営-3-①
計画(13)	知・人・資本を循環させ、組織的な共同研究により民間からの提供資金を拡大する「経営改革金沢モデル」の展開等により、財務基盤の強化を図るとともに、学長のリーダーシップの下、教育研究機能の最大化に向けた資源の配分を行う。		
指標(13-1)	共同研究の拡充と寄附金等による財源の多元化の推進に向けた外部資金獲得手法を令和7年度までに見直し	対応 ミッション	経営-2-③
計画(14)	理事、学域・研究域長等で構成される「企画評価会議」を中心として、客観的なデータに基づく効果的な自己点検評価等を年1回以上行い、評価結果や教育研究活動、その成果等をステークホルダーに発信・共有する。		
指標(14-1)	動画、SNS、Web サイト、ステークホルダー協議会等、多様な媒体を活用した広報戦略に基づく情報発信の展開と、ステークホルダーからの理解・支持・意見の獲得に係る体制を令和5年度までに見直し	対応 ミッション	経営-3-②
計画(15)	業務の合理化・効率化に向けた金沢大学版デジタル・キャンパスの実現や働き方改革を推進するため、ペーパーレス化、業務のデジタル処理化等、ICTを活用し業務の改善を図る。		
指標(15-1)	ペーパーレス化、業務のデジタル処理化の推進に係る年度計画の策定及び同計画に沿った既存業務へのRPAの新たな導入等による業務改善の実施	対応 ミッション	経営-2-①
指標(15-2)	令和5年度までにサイバーセキュリティ対策基本計画の検証・見直しと情報セキュリティに係る研修の実施	対応 ミッション	経営-2-①